審 査 結 果 の 要 旨

報告番号	乙 第 3060 号	氏名	藤木 玲
審査担当者	主 査	石竹達也 (印)	
	副主査	光岡正治 (印)	
	副主査	藤本公則 (印)	

主論文題目：

Daytime and Nighttime Visual Analog Scales May Be Useful in Assessing Asthma Control Levels Before and After Treatment

(喘息コントロール評価における日中及び夜間の visual analogue scale(VAS)の有用性)

審査結果の要旨（意見）

本論文は、単一の一般診療所を受診した喘息患者のうち、未治療患者（55 例）を対象に、喘息のコントロール評価において、日中と夜間の VAS の有用性を ACT との併用において薬物治療前後（前、治療後 4 週、8 週）で比較検討した臨床研究である。日常診療で簡単に利用できる VAS が喘息コントロール評価において ACT と同様に有用であることを示した。さらに夜間 VAS は ACT スコアや臨床的意義のある最小変化量（minimal clinically important difference: MCID）において日中 VAS よりも早くコントロール状態の改善を検出できる可能性を報告している。

本研究は、地域のプライマリーケアを担う一般診療所において、とくに呼吸器系の慢性疾患の代表である気管支喘息のコントロール改善のための方策として、これまでの VAS の利用に工夫を加えて調査するなど、極めて実臨床に即したものであり、今後の喘息患者さんの適切なコントロールに活用できる有用な知見を提供しており、今後のさらなる臨床研究につながる大変意義深い研究である。学位論文として十分に価値があると考えます。

論文要旨

喘息症状の正確な評価は喘息管理を改善するうえで重要である。VAS は咳の評価によく用いられており、喘息コントロール状態を全般的に評価できる利点があるが、VAS を用いた研究は少ない。そこで我々は喘息コントロール状態及び治療効果の評価における日中及び夜間の VAS の有用性を後方視的に検討した。

対象は症状を有する未治療喘息患者 55 例とした。症状コントロール状態の標準的な評価法として治療前、治療後の Asthma Control Test (ACT)を用い、ACT と VAS との相関、VAS の minimal clinically important difference (MCID)を検討した。

日中及び夜間の VAS はいずれも治療前、治療後の ACT と有意な相関を認めた。日中及び夜間の VAS の推定 MCID は 4 週で-3.2 及び-3.3cm、8 週で-4.6 及び-4.1cm であった。治療後 8 週で ACT20 点以上でも日中及び夜間の VAS が MCID に達しなかった患者は 34.0 及び 24.0%であった。

日中及び夜間の VAS は ACT 等の評価法と組み合わせることで喘息コントロール状態の評価に有用と考えられた。